

H23年豪雨水害

新潟大学 危機管理室

田村 圭子

H23年水害への 全国レベルの評価

- H16年水害の教訓に基づき、関連機関が進めてきたハード・ソフト両面の対策がうまく働き、被害が軽減された
- 新潟県「信濃川流域運命共同体」が機能した

新潟県として何を教訓とするのか



平成24年

8月20日(月)

14:00~17:00

【13:30 開場】

定員300名

新潟ユニゾンプラザ

多目的ホール (※会場へのアクセスは裏面をご参照下さい)

〒950-0994

新潟市中央区上所2-2-2 TEL. 025-281-5511

■基調講演

■パネルディスカッション

平成23年7月27日から信濃川下流域に降り続いた雨は、笠堀観測所で総雨量が1,000mmを超え、流域内各地に大きな被害をもたらしました。

この豪雨により、流域の水害リスクを考慮した更なる河川整備の必要性が問われるとともに、水防・避難などにおける新たな課題も浮き彫りになりました。

甚大な被害をもたらした豪雨から1年が経過し、近年頻発する局地的な集中豪雨等や将来予想される地球温暖化等への対応について、昨年の洪水を踏まえた上で、必要なソフト・ハード対策における今後の課題をテーマにシンポジウムを開催します。

入場無料

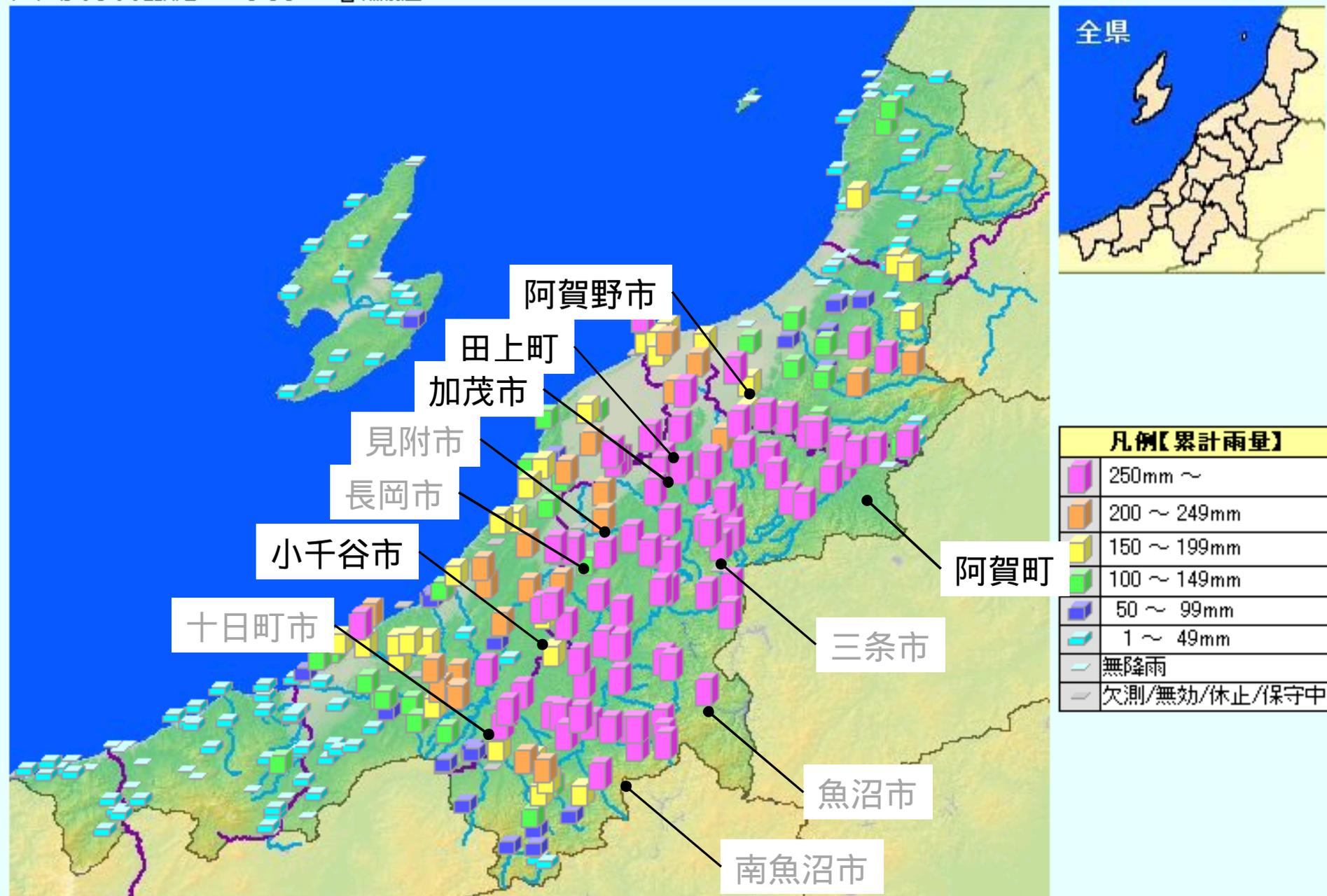
~申込方法は裏面をご参照下さい~

主催/国土交通省北陸地方整備局信濃川下流河川事務所

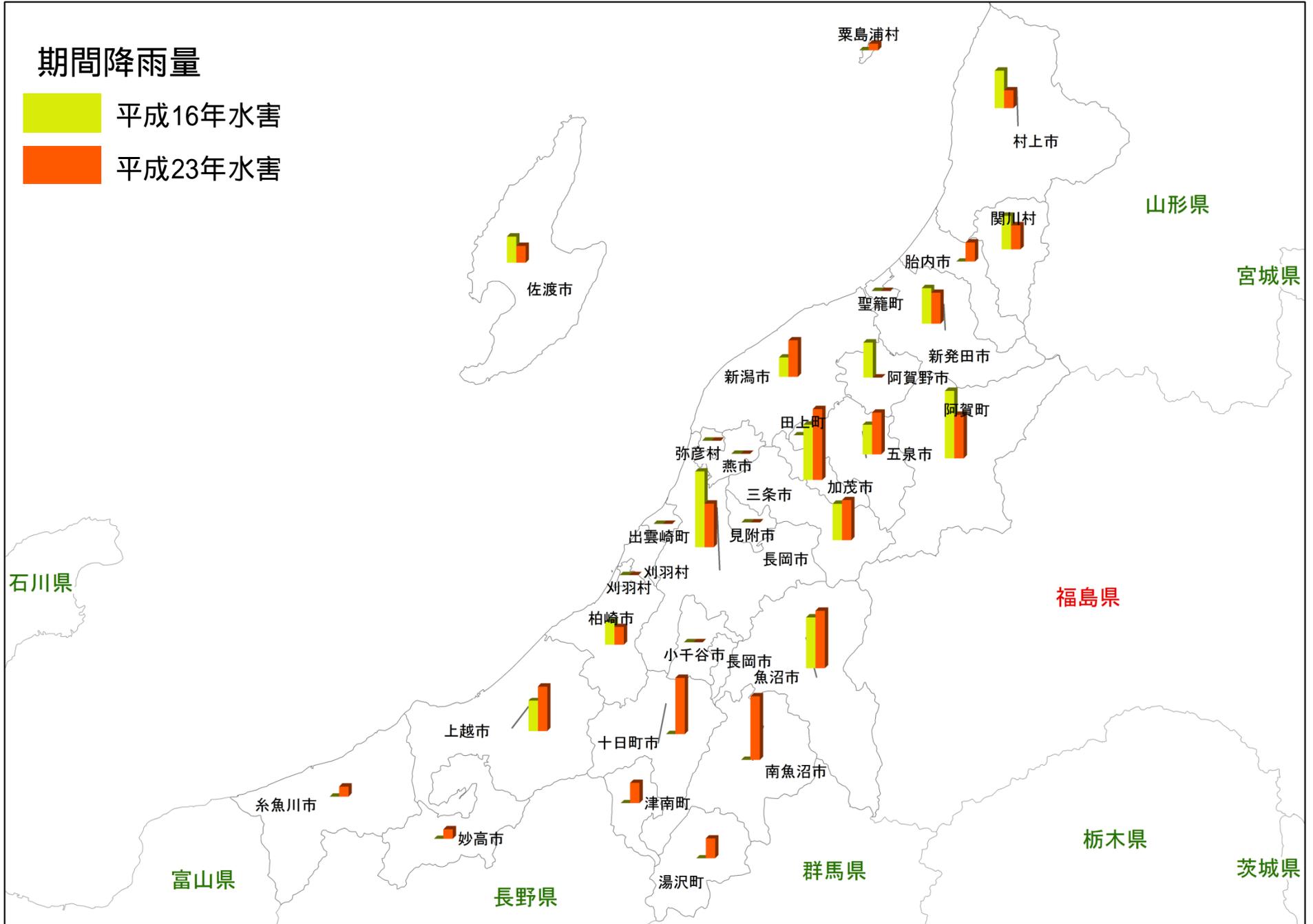
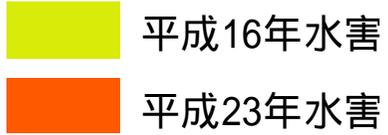
後援/新潟日報社、新潟県、信濃川下流城市町(新潟市、三条市、加茂市、燕市、田上町、長岡市、見附市)、新潟大学 災害・復興科学研究所

雨量状況図(全県) 2011年07月30日10時00分 現在

アイコンリンク先設定 グラフ 警報履歴



期間降雨量



死亡/行方不明の発生要因

		パターン1	パターン2	パターン3	パターン4
外力の状況		家屋倒壊させるような氾濫	流速は早いが、家屋倒壊させる威力はない	流速は早いが家屋倒壊させる威力はない	土砂災害が発生
被災の状況		倒壊した家屋内で死亡	屋外で被災。徒歩/車で移動中に死亡	避難支援者がおらず自室で死亡。	土砂災害により死亡
死亡・行方不明	H16年水害	3名	5名	3名	3名
	H23年水害	破堤しなかった	5名	浸水深が低い対応がよかった	何とか避難した



【破堤により流失した家屋
(新潟県中之島町)】



7/14
中越地方を中心に集中豪雨
各地で土砂災害発生
(新潟日報朝刊より)

7/15
被害者は高齢者に集中

H23水害評価：自助・共助には一定の効果があった

(新潟県調査より) 豪雨災害時の避難行動に関する住民意識・実態結果

- 避難・災害の情報を収集し、避難行動の是非を自ら判断する
- 住居/滞在場所に危険が迫れば避難行動を開始する

